

県内 病床使用率が急増



搬送されたコロナ患者に対応する自治医大付属病院救命救急センターの職員＝15日午後、下野市薬師寺、斎藤愛撮影

医療現場「戦争に近い」

入院続出、危機的な救急

新型コロナウイルス感染者の急増で病床使用率が一時68・9%の過去最高に達するなど、県内の医療機関が危機的状況に陥っている。入院患者が続出し、コロナ病床は逼迫。リアルタイムで状況が変わり、治療する患者をてんびんにかけるを得ないような状況が迫り、「戦争に近い状態」と例える医師もいる。綱渡りの現状に、県民全体での対策徹底や危機意識共有を再度求める声上がる。

(藤井達哉、宇留野有貴、斎藤愛)

15日午後、自治医大付属病院救命救急センターに、茨城県内から男性のコロナ患者が運び込まれた。作業事故で足を骨折し、救急車で内臓が破裂。コロナ患者を受け入れられる病院が近隣になく、事故から5時

間後に搬送された。命に関わる重篤な患者を診る3次救急の同センターで軽症者の受け入れが増えている。米川力副センター長(50)は(中核病院など)2次救急の病床が満床になった結果と説明。医療従事者にも感染が広がり、ぎりぎりの受け入れが続く。

間藤卓センター長(60)は「コロナ騒ぎが落ち着いたかのような社会の雰囲気があるが、医療現場は戦争に近い状態。重症者を診るのが3次救急であり、最悪、患者をてんびんにかけるを得なくなる」と苦悩する。

宇都宮市の社会医療法人中山会は、運営する市内の2病院でコロナ対応として最大48床を運用。11月中旬にゆいの杜記念病院で満床に近づくなど、入院患者が続出している。入院患者の8割超を75歳以上が占める。持病を抱える全面的な介護が必要な患者が多く看護の負担も増えているという。

宇都宮記念病院の森清志副院長(66)は「高齢者がコロナから回復しても持病が悪化するなど、転院しにくい。地域の医療機関と細やかな連携が重要だ」と指摘した。

「これ以上状況が悪化する」と、宇都宮市は、運営する市内の2病院でコロナ対応として最大48床を運用。11月中旬にゆいの杜記念病院で満床に近づくなど、入院患者が続出している。入院患者の8割超を75歳以上が占める。持病を抱える全面的な介護が必要な患者が多く看護の負担も増えているという。



140

中学生・高校生向け

年組

設問

【1】「逼迫」の意味として正しいものを一つ選びなさい。

- ・ア またとない恵まれた状況
- ・イ 長々と泊まること
- ・ウ 難しく解決ができないこと
- ・エ 行き詰まって余裕がなくなること

【2】記事の内容として最も適切なものを一つ選びなさい

- ・ア 足利赤十字病院の院長によると、コロナ病床以外の入院制限の可能性は全くないという
- ・イ 宇都宮記念病院の副院長によると、高齢者の重症化が減少しているという
- ・ウ 県内の病床使用率は7割を下回り、過去最低を記録している
- ・エ 各医療機関は、県民に対してワクチンを接種するかどうか慎重に判断しよう求めている
- ・オ ゆいの杜記念病院では、コロナ病床の入院患者のうち80%以上が75歳以上である

【3】治療する患者をてんびんに掛けざるを得ない状況を、ある医師は比喩を用いて何と表現していますか。漢字2字で書きなさい。

【4】空欄に当てはまる「相反する二つの事柄の板挟みになり、物事を決めかねる」という意味の外来語を次の選択肢から選びなさい。

- ・ア ト라우マ

- ・イ ストレス
- ・ウ ジレンマ
- ・エ コミュニケーション

【5】次の記事中の漢字の読みを答えなさい。

- ①陥って
- ②搬送
- ③重篤
- ④維持